

## 第 65 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門最優秀作品選評

### 「関東学院大学 横浜・関内キャンパス」

審査委員：藤岡 泰寛

大学機能に加えて劇場や飲食店、市民ギャラリーなどを地上 17 階、地下 2 階の空間に立体的に複合させた労作である。学びの多様化や公開講座等の市民ニーズの高まり、あるいは企業や自治体、地域との連携による実践型教育の推進に対応できる立地であり、駅から離れた広いキャンパスが原風景でもあった大学の姿も変わろうとしている。ただし、都市型キャンパスそのものは、以前からサテライトキャンパスなどとも呼ばれていて決して珍しいものではない。

この場所には 1974 年竣工の、前川國男建築設計事務所による横浜市教育文化センターが建っていた。コンクリート打ち放し仕上げと打ち込みレンガタイルの対比による抑制の効いたファサードデザインの工夫に加えて、駅前の一等地に 1 階から 3 階の低層部を教育文化ホールや市民ギャラリーとして市民に開放していた点が特色であった。耐震性の問題から惜しまれつつ解体・機能移転されたが、この市民ギャラリーは、全国に美術館がそれほどなかった時代に生まれ、永く市民に親しまれ続けてきたものである。そして、新たに建てられた都市型キャンパスでも、地下 1 階から地上 5 階までを市民が利用可能な施設となるよう計画された。

設計上の工夫としては、地上に公開空地を設けエントランスをピロティ化し一体的に開放するとともに、市街地環境設計制度を活用して可能となった高層階をセットバックして圧迫感を抑えつつ教室群を収めている。そして 2～3 階フロアには、旧教育文化センターのレンガタイル壁を再現しホワイエやギャラリーを設けるとともに、外観に立体ガラスファサードを採用し、意匠的にも市民に開かれた都市的建築であることを表現している。

教育、歴史、環境、景観、防災などますます高度化する要求を、限られた敷地のなかで一つの建築物にまとめた総合力は最優秀賞にふさわしいものである。これからもこの場所が市民に開かれた場所として継承されていくことを期待したい。